

神戈陵を渡る風

令和3年度 川辺高校 校長通信 第041号

令和4年2月4日(金)発行

2月になりました。英語では、February。この呼び名の意味は、ラテン語で「厄払いの月」という意味があるらしいです。12月22日の冬至を過ぎてからだんだんと昼間の時間が長くなってきていますが、まだまだ寒い日が続いています。1月末から2月にかけて一番冷たく寒く感じるようです。今冬は、川辺には雪が積もっていませんが、北海道や日本海側の地域では、大雪になったところもあり、相当な被害が出ています。節分も過ぎ、今日は立春となり、暖かい春が待ち遠しいです。

日本の色

2月の色

日本には、自然や文化から生まれた美しい伝統色とその呼び名があります。私たちの周りを見渡せば、いろいろな場所に日本の色を見つけることができます。「にっぽんのいろ」を尋ね、心落ち着く色や、元気が出る色、優しい色、自分に似合う色を知ること、ぜひお気に入りの「にっぽんのいろ」を見つけてみませんか。

利休鼠 (りきゅうねず)

名前の由来は諸説あり、「地味で控えめな色なので、侘びた色として、侘茶(わびちゃ)を追求した千利休(せんのりきゅう)を連想した。」などの説があるそうです。



利休鼠
りきゅうねず

若草色 (わかくさいいろ)

若草色とは、冬の寒さに耐え、大地に芽生えた若草の色。新しい季節の希望に満ちた美しい色です。



若草色
わかくさいいろ

鶯色 (うぐいすいろ)

美しい声で春の訪れを教えてくれるうぐいす。「春告鳥(はるつげどり)」とも呼ばれる、うぐいすの羽に似た美しい黄緑色です。



鶯色
うぐいすいろ

今回は、3種類の緑色を紹介してみました。日本語の持つ繊細な色の表現方法を少しでも体感できればと、校内で撮影した苔や植物の写真を利用してみました。

節分とは何？



今年の節分は2月3日(木)です。2月4日(金)立春の前日なので節分と言います。昨年は、2月3日が立春でした。よって、2月2日が節分でしたが、これは大変珍しいことで、2月3日以外が節分になったのは、1984年(昭和59年2月4日)以来37年ぶりのことでした。

さて、立春の前日だから節分と言っていますが、節分とは読んで字のごとく、季節の分かれ目をさしています。すると、立春以外の立夏、立秋、立冬の前日(前夜)も節分となり、もともとは節分も年に4回ありました。日本では、季節の変わり目には邪気が生じやすいと考えがあり、夕方から外出を控えるなどして身を慎む「物忌み」の習慣が古くからあったそうです。



立春の前日の節分が季節の行事として広く知られ、毎年欠かさない季節のイベントになり、豆まきをしたり恵方巻を食べたりするようになった理由は、明治5年まで使われていた旧暦とも関係があるそうです。現在の暦では立春は2月4日頃ですが、旧暦ではちょうど正月の頃にあたります。そのため、立春は春の始まりという意味とともに、新年の始まりという意味もあったそうです。ということは、節分は年越しの日ということになります。豆まきや恵方巻といった節分の行事は、実は正月の文化が色濃く影響した催し物であるといえます。

ピンチとチャンス

新型コロナウイルスの感染拡大は、変異したオミクロン株による影響で、日本中のあちこちで悲鳴が聞こえるような状況です。医療関係者や外に出なければ仕事にならない人たちの努力に感謝しつつ、今できることは何なんだろうか？ どんな形になるにせよコロナ禍が去った後の世の中がやってくる。その時になにができるか……今はそのための準備が出来る期間と捉えてみてはどうでしょうか。

ピンチにも学習をやめなかった吉田松陰

幕末の思想家に吉田松陰(よだしょういん)がいました。幕末期、長州藩萩(はぎ)町(山口県萩市)に松下村塾という私塾を主宰し、明治維新の志士を輩出したことで有名です。



1853(嘉永6)年、黒船が浦賀に来航。これを聞きつけた松陰は師の佐久間象山(さくましようざん)と見物に駆けつけ、蒸気船を含む黒船を見て西洋との差に驚き、まだ国外への渡航が禁止されていた時代に留学をしようと決意しました。いきなり船に乗り込んできた松陰らにペリーは驚き、幕府を刺激することを避け、申し出を断りました。そのまま捕らえられ牢屋敷に投獄されてしまった松陰は、狭い牢の中で、悔しさに涙を流す……だけではありません。牢番に「なにか書物を拝借したい」と申し出ました。密航を企てたことで死罪になることが確実だった彼の行動に牢番は驚きますが、「およそ人一日この世にあれば、一日の食を喰らい、一日の衣を着、一日の家に居る。なんぞ一日の学問、一日の事業に励まざるべけんや」読書を欠かさず、ついには牢内の者たちに講義をするようになりました。後に死罪を逃れた松陰は国許蟄居となり長州で幽閉されますが、松陰が松下村塾に多くの若者たちを集めたのは、こんな学問の背景があったからだと思います。